令和五年　第二十四期くまもと俳句ポスト

第二十四期開函
「ホトトギス」同人　山下　しげ人　選

特選

木石のかへす初冬の光かな　香川県丸亀市　三好　康夫

【講評】

作者は、初冬の日ざしを浴びて柔らかさと幽かな温かさを味わい安寧に浸っていたのでしょうか。目の前にある木や石が初冬の日ざしに応えるように光を放っている様を見たとき、木石にも情があり、自分と同じような命があることを感じ取ったのです。寄り添い、心を通わし連帯してゆくことが戦争や災害の被害から立ち直る一歩だとするならば、そのことを示唆してくれているような生きる力の根源となる一句とも思われます。

わが輩通り賞

水底に映る波紋や散紅葉　熊本県熊本市　芥川　卓

入選

漱石居産湯（そうせききょ）の跡の蝉しぐれ　熊本県熊本市　嶋田　光子

雷鳴りて黒猫ぬっと去りにけり　大阪府高槻市　木村　輝

漱石の思い出闊歩肥後小春　熊本県熊本市　佐藤　誠吾

佳作

阿蘇九重つなぐ芒（すす）の風の波　熊本県熊本市　山﨑　綾子

目もくれぬ臭木の花の咲きにけり　福岡県大牟田市　前原　八寿之

岸離れ海の蜻蛉となりゆけり　福岡県大牟田市　藤好　信子

漱石に思いを馳せる月見会　熊本県天草市　長野　真理

冬の朝神社の鈴の小（ち）さく鳴る　熊本県熊本市　中村　和徳

雪の降る漁村地蔵に毛糸帽　熊本県熊本市　貴田　雄介

ひとり居て大の字に寝る夏座敷　熊本県熊本市　波野　壽代

月あかり風に流れる笛の音　熊本県熊本市　岡野　俊博

庭一面木々がたくさん涼しいな　熊本県熊本市　青木　梨愛來

武者返し挑みのけ反る春の空　神奈川県小田原市　井上　靖

投句総数　百四十七句
市内　七十七句
市外　七十句

開函日　令和五年十二月三十一日